

論文博士の学位授与申請に係わる審査報告書

氏 名 (本籍) NURUL ZARIRAH BINTI NIZAM (マレーシア)

学位の種類 博士 (経営学)

報告番号 乙 第 25 号

学位授与年月日 平成28年3月20日

学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当

論文題目 International Green Marketing and Retail
Companies

審査委員 主査 教授 星野 靖雄
副査 教授 玉置 光司
副査 教授 神頭 広好

2016年(平成28年)2月13日
愛知大学大学院経営学研究科

論文博士の学位授与申請書に係わる

本審査報告書

氏 名 Nurul Zarirah Binti Nizam

論文題目 International Green Marketing and Retail Companies

審査委員

主査 愛知大学教授

星野 靖雄



副査 愛知大学教授

玉置 光司



副査 愛知大学教授

神頭 広好



審査結果の要旨

論文内容の要旨

本論文は、国際グリーンマーケティングと小売企業の財務分析の2部からなっている。

第1章は全体の序章として、グリーンマーケティングの定義、環境問題、小売企業、財務データについて述べ、研究目的、貢献、論文の構成について紹介している。

第2章では、マレーシアにおけるランダムサンプリングによるアンケート調査の実証分析である。経済的・物理的に問題がないと考えられる人々に対してショッピングモールでのアンケート調査を2011年2-3月に実施し、374件(回収率74.80%)の回収を得ている。回答者の87.2%は回教徒であり、仏教徒4.5%、キリスト教徒4.3%であった。

消費者にとっては、環境に優しい、自分自身にとって都合がよい、コストの優位性、取得可能なコストの4つの独立変数による消費者の製品購買意欲への影響を分析している。4つとも製品の購買行動と有意な関係があるが、環境に優しいという変数は、相関関係が他の4変数と比べて低いことが指摘できた。

第3章は、若者世代(年代Y)のマレーシアでのグリーン製品の購買行動の研究である。環境に優しい購買行動に影響を与える要因として、社会的影響、環境への態度、環境への関心、エコラベル、政府の役割の5変数を分析している。アンケート調査はマレーシア半島全体で18-28歳の人を対象に行われ、質的、量的調査を実施して、500件の回収を得

ている。各変数のクロンバックのアルファ係数（信頼性係数）は、0.770 から 0.863 であった。結果は、5 つの変数は環境に優しい購買行動に影響を与えていることが回帰分析と分散分析により指摘できた。

第 4 章は、全世界の上場企業のデータベースであるビューロー・ヴァン・ダイク社の OSIRIS より、マレーシア、日本、米国の 3 か国における 2008 年より 2018 年での小売業企業の財務特性の比較分析を収益性 4 指標、流動性 3 指標、売上高成長率で比較分析した。日本企業の収益性は低い、売上高成長率は 3 か国で一番高いことが示された。マレーシアの収益性が最高であることも実証された。

第 5 章は、前章と同じデータベースによるマレーシア、日本、米国、カナダ、ブラジル、タイ、インドネシア、中国、インド、オーストラリア、ケイマン諸島の 10 か国と 1 地域のアジア・アメリカにおける 2008-2012 年までの上場企業の財務特性の比較分析である。財務特性は、国によって異なっていることが正規性の検定、クラスカル・ウォリス検定、ANOVA で実証され、ROE については、タイの方がブラジルより統計的有意で高く、自己資本比率では、オーストラリア、カナダ、日本、タイの順に高くなることが指摘されている。収益率については、ROA ではインドを除くすべての国・地域で ROE と ROCE では、インドとブラジルを除くすべての国・地域で日本企業が最低となっている。しかしながら、プロフィットマージンでは、有意な結果は得られなかった。収益性を測定する尺度により結果が異なることが指摘できた。売上高成長率と収益性には有意な関係はないとしている。

第 6 章は、全体の結論と意味、研究の限界、今後の展望である。

審査結果の要旨

本研究の前半はマレーシアで実施されたアンケート調査による回答を統計的に分析するというマーケティング研究の基本的アプローチを採用している。後半は、日本において、まだあまり利用されていないビューロー・ヴァン・ダイク社の全世界の上場企業のデータベースである OSIRIS を活用した実証的計量分析であり、両方とも手堅い実証分析であるといえる。これらの実証分析より得られた詳細な知見、特に経営指標の国際比較での詳細な分析による事実発見型の研究は評価される。この分野の発展に大いに貢献するとともに、実務家に対しても価値ある情報を提供できるものである。その成果は *International Journal of Contemporary Research in Business*, *International Journal of Business and Management* の査読付きの 2 学術誌と国際学会第 6 回マレーシア経済学会、経営行動科学学会第 18 回年次大会のプロシーディングに掲載されており、それらは、独立法人 科学技術振興機構のデータベースである researchmap で他の査読付論文 4 編とともに閲覧・ダウンロードできる。

以上より、本審査委員会は本論文が愛知大学学位規程第 13 条第 2 項の規定により、博士（経営学）の学位授与申請に足る水準を十分満たしているものと審査委員一致して判断するものである。